

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点 ・協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

### 1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

大分県宇佐市

○学校名

宇佐市立高家小学校

○学校のURL

<http://syou.oita-ed.jp/usa/takei/>

### 2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 6 学級、【特別支援学級】 1 学級、【合計】 7 学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 106 人（平成26年12月4日現在）  
（内訳：1年生19人、2年生20人、3年生11人、4年生20人  
5年生23人 6年生13人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成26年度大分県人権教育確立推進事業体験的参加型人権学習指定研究  
平成25・26年度宇佐市教育委員会・人権教育研究協議会助成研究協力校2年次

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

自ら学ぶ意欲と夢を持ち、ふるさとを誇りに思う 心豊かな高家っ子の育成

【人権教育に関する目標】

人権を尊重する自覚を高めるとともに、豊かな感性と差別を見抜く目を養い、身の回りの不合理を解決していこうとする態度を育てる。

○人権教育に係る取組一口メモ

自分も周りの友達も大切に基本の構えとして、「話の聞き方」・「自分の考えの持ち方」・「表現の仕方」について具体的な姿を描き、子供たちの学習面と生活面を見つめながら研究実践している。

○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】

考えを出し合い、いいところを認め合える「高家っ子」の育成を目指して  
～考えを交流し、自己表現する指導の工夫～

【研究仮説】

課題に対する子供自身の考えを持たせ、子供同士が学び合いながら表現する活動の工夫に取り組めば、考えを出し合い、よいところを認めあえる子供が育つであろう。

【目指す児童像と具体的な姿】

授業や日常生活の場で、友達のよいところを見つけながら学び合う子供

		聞 く	自分の考えを持つ	発表・発言・行動する
授 業	低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人を見て、最後まで聞く。</li> <li>・うなずいたり反応したりして聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と友達の考えとを比べて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話に対して質問をしたり感想を言ったりする。</li> <li>・自分の考えを進んで話す。</li> </ul>
	高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が何を言おうとしているのかを、正確にメモを取りながら聞き取る。</li> <li>・相手の考えを尊重して聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問、質問、意見、感想を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理して、自分の言葉で発表する。</li> </ul>
日 常 生 活	低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の考えを最後まで聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを言う。</li> <li>・みんなが気持ちよく生活できるように考え、行動していく。</li> </ul>
	高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の考えを尊重して聞く。</li> <li>・公平な立場で考えを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手も自分も互いの立場を尊重した考えを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時、人、場を考えた発言や行動ができる。</li> </ul>



←「自分の言葉で発表」

【研究内容】

- 1 児童理解（子供とらえ）
  - ・子供の様子を情報交換により共通理解し全職員で指導、学習の実態把握、Q-U 検査
- 2 体験的参加型人権学習
  - ・全教科・全領域で、「体験的な学習」サイクルの授業の取組
- 3 体験的参加型の様々な手法の活用
  - ・仲間づくりや自尊感情を育むアサーション、プロジェクトアドベンチャー等
- 4 学習意欲を高め、活用力をつけるための授業改善
  - ・目当てや課題の工夫、自分の考えをもつ工夫等
- 5 学び合い、認め合う力をつける日常的な取組
  - ・伝え合う場の設定（朝の会・帰りの会等）、スピーチ、成長ノート等
- 6 自尊感情を高める取組
  - ・居心地のよい学級を目指す年2回の人権集会
- 7 保護者との連携
  - ・PTA人権・同和教育推進部会の活動、アンケート結果を元に学級懇談

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### 【取組】

「体験的な学習」サイクルによる授業の実践

#### 【取組のねらい】

第三次とりまとめの研修より、子供たちに人権教育をとおして「自己的人権を守り、周りにいる友達の人権も守るための実践行動」ができるためには、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の三つの側面から日常的な取組が大切である。そこで、全教科・全領域でこの側面を関連づけた研究を進めてきた。

#### 【取組を始めたきっかけ】

本校では、子供たちの実態から生活面も学習面も共通して言える課題は、一番の基本である「聞く力」が弱いことではないかと考えた。話を聞く姿勢はできている。しかし、話の内容や目的を持って聞いていないのではないかと。いかに聞かせるかが大事になってくる。そこで、自分も周りの友達も大切に基本の構えとして、「話の聞き方」、「自分の考えのつくり方」、「表現の仕方」について具体的な姿を描き、子供たちの学習面と生活面をしっかりと見つめながら研究実践していこうと共通理解した。

#### 【取組の内容】

全教科で「体験的な学習」サイクルを組むとき、各教科の単元のねらいに迫らせるために、子供たちには学習に対する目的意識を持たせ単元を貫く学習意欲の持続化を図った。そのためには

- ・何を体験させ、子供たちの心をどう揺さぶるか。（体験）
- ・どういう課題にするか。
- ・一人一人にどのように考えを持たせるか。
- ・考えを大切にしながら、意見交流をどのようにするか。（話し合い）
- ・全体の場でどのように意見を練り合っていくか。（反省）
- ・どう、まとめるか。（一般化）
- ・学習のまとめや発展としての子供のどんな姿を目指すか。（適用）

この一連の流れを常に組んできた。教科によっては、教材と一緒に読んだり写真を観たりして考えをもつことも「体験」と捉えている。子供たち全員に、その「体験」から何を課題として考えさせるのかを大事にしてきた。また、意見の交流の場では、友達の考えをしっかりと受け止めたり友達のよい考えを自分の考えに取り込もうとしたりする姿も、丁寧に積み重ねてきた。

一方、道徳や学級活動では、体を使った動きのある体験活動であるため、学習活動は組み易く子供たちも活動的であった。

単元の終わりには全教科・全領域どちらも、まとめ（一般化）の段階である「自分の振り返り」で子供たちの考えの深まりや理解度を把握し、日常生活の実践（適用）へとつなげることをねらってきた。また、授業者自身の反省材料と次時への学習の組み立てにも役立っている。

「体験的な学習」サイクルの授業モデル

宇佐市立高家小学校

学習の流れ	子供の活動	期待する子供の姿
体験する	①本時の目当てを知る。 ②自分の考えをもつ。	◎体験から感じ取る ◎既存の知識や経験を活用
話し合う	③自分の考えを発表する。 ④友達の考えを聞く。 「交流」伝え合う ⑤自分と友達の考えの共通点・相違点に気づく。	◎自分の考えを整理。伝え方の工夫。 「私は、～だと思えます。」 「私は、～だと考えます。」 ◎友達の考えの理解。友達の意図するところの理解。 「〇〇さんは、～という考えなんだ。」 ◎自分と友達の考えを比較する。友達の考えのよさに気づく。 「〇〇さんと自分の考えは、同じだ。」 「〇〇さんと自分の考えは、似ているな」 「〇〇さんと自分の考えは、ちがうな。」 「〇〇さんの考えはこんなところがよい」
ふり返りを する (反省する)	⑥自分と友達の考えを 検討する。	◎みんなで交流し、問題解決をする。 「〇〇さんと自分の考えが、よい。」 「〇〇さんと自分の考えも、大切だ。」 「〇〇さんと自分の考えは、おもしろい」 「自分の考えは、正しかった（間違っていた）。」
一般化する	⑦自分の考えをまとめ る。	◎（本時の）学習したことをまとめる。 「学んだこと（わかったこと）は、～です。」 「〇〇さんの意見を聞いて、～だと思いました。」
適用する		◎学んだことの行動化

【研修の経過及び計画】

- 平成25年8月 第三次とりまとめを活用した授業の在り方（研修）
- 平成26年3月 次年度の人権教育の進め方について（研修）
  - 4月 人権教育推進事業と第三次とりまとめについて（研修）
  - 6月 第1回人権集会  
体験的参加型人権学習校内研究会 提案授業4年生
  - 7月 児童の意識調査
  - 8月 人権教育研修（研修）
  - 9月 仮説検証授業3年生  
Q-U検査（1回目）



←「人権集会」

- 10月 体験的参加型人権学習指定研究発表会 提案授業2年生 6年生
- 12月 第2回人権集会
- 12月 Q-U検査(2回目)
- 1月 仮説検証授業5年生
- 2月 実践レポート発表1年生(研修)
- 3月 研究総括及び来年度に向けて



「付箋で整理」

【2年国語科授業 指導案(抜粋)】

本時案(6/13)

- (1) 題目 しあわせな気分になるがまくん
- (2) 主眼 「ああ。」の言葉に着目し、一場面と比べたり、「ああ。」の後に続く言葉を考えたりすることをおして、手紙がもらえる喜びとかえるくんの優しさを知り、とても幸せな気持ちになるがまくんの気持ちを読み取ることができる。
- (3) 展開(45分扱い)《3場面後半》

	学習活動	時間	教師の指導・支援
導入	1. 本時の目当てを確認する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習を音読で振り返り、目当ての確認をする。</li> <li>・手紙が来るのをあきらめているがまくん。</li> <li>・かたつむりくんが来るのを待ちながら、がまくんのことを一所懸命励ましているかえるくん。</li> </ul>
お手紙をまつがまくんとかえるくんの気持ちをそうぞうして、音読の工夫を考えよう			
体験	2. 会話文に着目し、様子や気持ちを想像する。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書き込みをもとに、音読の工夫やそう考えた理由を発表させる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>〈がまくん〉</p> <p>例・かえるくん、どうしてきみ～ (ふしぎそうに)</p> <p>・「でも来やしないよ。」 (あきらめているように)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>〈かえるくん〉</p> <p>・「きつと来るよ。」(はげますように。)</p> <p>・「だって、ぼくが、きみにお手紙～ (よろこばせるように。)</p> </div> </div>
	3. 課題に対する自分の考えを持つ。	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ああ。」の読み方に焦点を絞り、課題につなげる。</li> <li>《「ああ」の読み方が一場面と同じかな。なぜちがうのかな。》</li> <li>1場面・・・悲しんでいる。 (がっかりしたように。しょんぼりして。)</li> <li>3場面・・・喜んでいる。 (うれしそうに。感動したように。)</li> </ul>
話し合い	4. ペアで話し合う。	2	「ああ。」のあとに、心の中でどんなことばを言ったのかな。
	5. 全体で話し合う。	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを吹き出しカードに書かせ、ペアで交流させる。その際、そう考えた理由も話させる。</li> <li>○ ペア交流の後、発表の準備をさせる。</li> <li>○ 全員の考えを黒板の吹き出しの中に貼り交流させる。</li> </ul>

ふりかえり 一般化		「ああ。 よかった。」	「ああ。 なんてすてき	「ああ。 かえるくんって、 やさしいな。」	「ああ。ぼくも うれしいな。」	「ああ。ぼくも きみの親友だよ。」	「ああ。 親友だなんて うれしいな。」
	6. まとめる。	7	<p>○手紙がもらえることに喜びを感じている言葉と、かえるくんの気持ちを知り喜びを感じている言葉に大きく仲間わけできることに気づかせる。</p> <p>○お手紙をもらえる喜びとかえるくんの優しさを知り、とても幸せな気持ちになっており、短い言葉の「ああ。」の中に、がまくんの嬉しい気持ちがいっぱいつまっていることを押さえる。</p> <p>○読み取ったことを生かして、気持ちを込めて役割読みをする。</p> <p>○ノートに振り返りを書かせ、数名に発表させる。</p> <p>○次時は手紙が届いたときの二人の気持ちを読み取っていくことを伝える。</p>				

【6年生道徳指導案（抜粋）】

本時案（4／5）

(1) 題目 ムラの者はどんな思いで逃散を決めたのだろう

(2) 主眼 ムラの者が逃散の最終決定に至った場面を学級活動や社会科での学習・取組をもとにロールプレイをすることにより、仲間と力を合わせる団結力や決して人権侵害を許さないという強い思いの大切さが理解できる。

(3) 展開

	学習活動	時	教師の指導及び支援
導入	1. 学習を振り返り本時の目当てをつかむ。	3	○歴史の学習や地図や法令、挿絵などを振り返り、被差別の立場に置かれた人々の怒りや、必死の思いに共感させながら振り返り、本時のロールプレイの場面を想像させる。
	一揆を決めるムラの者の思いを想像しよう		
	2. 自分だったらどんな言葉を使うのか、台詞を考える。	7	○リーダー的役割の人、はじめに意見を出す人などの役割分担をして、ワークシートに自分が言う台詞を個人で考えさせる。 ・「今、立ち向かわんで、いつ立ち向かうの?」「命がけでがんばろう!」といった表面的な言葉が予想される。 ・自分がもしもその場にいたらどんな意見を出すのか、ただ単に賛成をするのか心を揺さぶる声かけをする。

体験 話し合い	3. ロールプレイをして、自分の正直な気持ちを言えたか、感想を出し合う。	5	○台詞を元に簡単にロールプレイをさせ、正直な気持ちが出せたか意見を交換させる。 ・子供たちから一揆に賛成する表面的な意見のみであった場合「やっぱり、命を落として立ち向かわなくても浅黄半襟を我慢してつけばみんな助かるのでは？」と問いかける。 ・子供たちから一揆に反対する意見が出てきた場合、その素直な気持ちを褒め、本時の課題を投げかける。									
	4. 一揆を起こすことに心が揺れ動く人に対して、どんな「ことば」が必要なのか考え、意見を出し合う。	20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">どんなことばが みんなの心をひとつにしたのだろう</p> </div> <p>○悩む心をひとつにした「リーダー的役割の人」の台詞は何か、資料を元に考えさせる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">《予想される子供たちの考え》</th> </tr> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">安心させることば</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">共感することば</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫、これで両子の百姓も成功したやろ。</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの不安な気持ちは分かる。おれも一緒や。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">勇気を奮い立たせることば</th> <th style="text-align: center;">団結を意識させることば</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そんな弱気じゃ絶対一揆なんか成功せんぞ！</li> <li>・誰かがいつか立ち向かわんといけんので、いつまでも差別され続けてもいいの？</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ではできんことでも、みんなでやれば大丈夫</li> <li>・みんなで力を合わせんと！絶対一揆は成功せんぞ。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>・考えを書けない子供たちには、学級の歴史を振り返り、自分たちの体験から考えさせる。 ・はじめは一人で考え、後半からグループで意見を出し合わせ、より深く考えさせる。</p> <p>○考えを交流させ、子供たちの言葉を板書に位置づけ、台本の形にしていく。 ・考えたことばに対して反対意見がないか、また、なぜ、そのことばが必要なのか全員に理由を問いながら台本を作っていく。</p>	《予想される子供たちの考え》		安心させることば	共感することば	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫、これで両子の百姓も成功したやろ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの不安な気持ちは分かる。おれも一緒や。</li> </ul>	勇気を奮い立たせることば	団結を意識させることば	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そんな弱気じゃ絶対一揆なんか成功せんぞ！</li> <li>・誰かがいつか立ち向かわんといけんので、いつまでも差別され続けてもいいの？</li> </ul>
《予想される子供たちの考え》												
安心させることば	共感することば											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫、これで両子の百姓も成功したやろ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの不安な気持ちは分かる。おれも一緒や。</li> </ul>											
勇気を奮い立たせることば	団結を意識させることば											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・そんな弱気じゃ絶対一揆なんか成功せんぞ！</li> <li>・誰かがいつか立ち向かわんといけんので、いつまでも差別され続けてもいいの？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ではできんことでも、みんなでやれば大丈夫</li> <li>・みんなで力を合わせんと！絶対一揆は成功せんぞ。</li> </ul>											
5. 本時のまとめとして、「ことば」を選択し、ロールプレイで表現をする。	10	<p>○勇気を奮い立たせることば、団結を意識したことばがみんなの心をひとつにしたことを確認して、本時のまとめを書かせる。</p> <p>○みんなで作った台本を読み、代表のグループに表現させる。 ・演技をしている場面を ICT 機器で撮影しておき、振り返るときに用いる。</p> <p>○次時は、正の受け取った思いを想像させ、人権集会でみんなに訴えたいことを考えることを伝える。</p>										
一般化												
体験												

#### 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

- 「体験的な学習」サイクルの授業モデルをどんなものにするか。  
→全職員で共通理解するために県教育委員会より講師招へいをし、校内研修を重ねた。昨年まで本校で取り組んできた授業モデルと「体験的な学習」サイクルを重ねて授業モデルを作ったことで分かりやすくなった。
- 授業モデルの共通理解を経て、各教科・領域での授業実践を始めた。特に「一般化（まとめ）」の段階で、具体的にどうすればよいかについて検討を重ねた。  
→授業を振り返って、「学んだこと（わかったこと）は、～です。」「○○さんの意見を聞いて、～だと思いました」という型を作り、学年に応じた内容をノートに書かせるようにした。始めは教師も子供も迷いがあったが、実践していくうちに慣れてきて、まとめができるようになった。

#### 5. 実践事例の実績、実施による効果

- 課題にリンクした「体験」をさせたことで子供たちは課題を受けとめ「自分の考えをつくる」ことができた。
- 考えの交流の場では、付箋の活用が比較や類推・整理等、思考の手助けとなった。
- 「体験的な学習」サイクルの授業モデルを実践したことで、子供が一時間の授業の見通しが持て、「振り返り（一般化）」まで、課題に集中できた。
- 「体験的な学習」サイクルの授業実践を続ける中で、考えを出し合ったり友達のよいところを認め合ったりする姿が授業でよく見られるようになった。特に教科でも、「体験的な学習」サイクルで人権の視点からの授業ができることは教師にとっても授業改善に有効であった。

#### 6. 実践事例についての評価

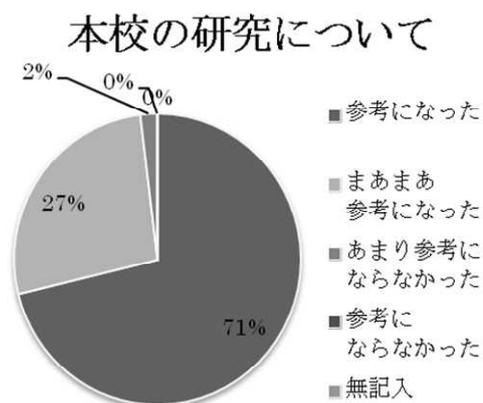
【本校公開研究発表会来校者評価】  
本校の研究について98%の来校者から「参考になった」と評価を受けた。

(理由)

- ・授業が参考になった。
- ・日頃の取組が伝わってきた。
- ・「体験的参加型」授業で子供たちが主体的に取り組んでいた。

【現在取り組んでいる課題】

- 各教科・領域で「体験型学習」サイクルに取り組む手法は、わかってきた。しかし、意見交流のまとめの段階で、もっと授業者が切り返し、問いかけていく必要がある。どんな言葉でどんなふうにまとめていくか(一般化)をしっかりと描いておくことが大事である。
- また、道徳では、課題がクラスの実態から生まれているかが大事である。本質的な所を授業で扱い、担任の思いを伝えていくことが必要である。今後も自分の思いを出せる学級作りの取組を積み重ねる必要がある。



## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 宇佐市立高家小学校

「体験的な学習」サイクルによる授業実践を進めた事例である。2年間にわたり「第三次とりまとめ」の研修を行っており、その成果を具体化した実践である。児童同士の自己表現を交流させることによる人権教育の推進を目指している。児童の学習面と生活面をバランスよく研究対象としている点が特徴的である。人権教育が目指す児童像を「授業」と「日常生活」の2側面で設定し、いずれも低学年と高学年に区分し、「聞く」「自分の考えを持つ」「発表・発信・行動する」の3段階で構造化している。「授業」については「体験的な学習」サイクルとして、体験する、話し合う、ふり返りをする、一般化する、適用するという一連の活動を活用している。この「体験的な学習」サイクルモデルの開発の試みは人権教育の教育方法研究として示唆に富む。